

科目責任者 矢久保 修嗣(臨床漢方研究室)

■教育目的

「天然物由来の薬物」である生薬は、古来より医薬品として利用されて来た。これを踏まえ、医薬品としての生薬ならびに医薬品開発における天然薬物の重要性、特に代表的な薬用植物や生薬について含有される薬効成分などを中心に幅広く理解し、あわせて、現代医療に用いられている主な漢方処方についても概説できることを目的とする。

【卒業認定・学位授与の方針:薬 YD-①、YD-②、YD-③、SD-①、SD-③、SD-④】

■学習到達目標

1. 自然が生み出す薬物として、薬になる動植物について理解する。
2. 薬の宝庫としての天然物を理解する。
3. 現代医療の中の生薬および漢方処方について理解する。

■準備学習（予習・復習）

予習：シラバスをもとに教科書など関連する箇所を目を通しておく。(20分以上)

復習：教科書、配布プリントなどで、授業内容が理解出来ているか確認する。(30分以上)

■授業形態

双方向型授業 (ICT 活用)、講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	生薬とは	生薬の歴史・生薬から医薬品の誕生	C5(1)-②-1 C5(2)-④-1
2	生薬とマラリア	人類の病気との闘いと生薬	A(1)-④-1,2 C5(2)-④-1,2
3	薬用植物の分類	生薬の基原植物の形態と分類 基原植物、生薬の学名と命名法	C5(1)-①-1~3
4	生薬の品質評価	日本薬局方の生薬関連事項 通則、生薬総則、一般試験法など	C5(1)-④-1~5
5,7,9	生薬を用いた臨床の実際(1~3)	高齢者、消化器症状、ストレスに対する漢方治療	E2(10)-①-1~4 E2(10)-②-1~3 E2(10)-③-1
6,8,10	臨床に用いられる生薬とその成分(1~3)	高齢者、消化器症状、ストレスに用いられる漢方処方を構成する代表的な生薬の基原植物・薬効成分など	C5(1)-①-1~3 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1~2
11,13	生薬を用いた臨床の実際(4~5)	婦人病・冷えや頭痛、呼吸器症状に対する漢方治療	E2(10)-①-1~4 E2(10)-②-1~3 E2(10)-③-1
12,14	臨床に用いられる生薬とその成分(4~5)	婦人病・冷えや頭痛、呼吸器症状に用いられる漢方処方を構成する代表的な生薬の基原植物・薬効成分など	C5(1)-①-1~3 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1~2
15	生薬の化学的分類・注意を要する生薬・まとめ	生薬の有効成分による分類、取扱に注意を要する生薬について	C5(1)-①-1,4 C5(1)-②-1 C5(1)-③-2

■授業分担者

矢久保修嗣(No.5・7・9・11・13)、馬場 正樹(No.1・3~4・6・8・10・12・14~15)、小林 照幸(非常勤講師)(No.2)

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

質問は随時受け付け、その一部は次回講義で解説する。また、学習相談等で試験に関するフィードバックも行う。

期末試験の成績(90%)、授業への参加態度(10%)で総合評価する。

■教科書

『パートナー生薬学 改訂第3版増補』竹谷孝一ら 編(南江堂)

■参考書

『実践 漢方生薬学』小池一男ら編 (京都廣川書店)

